



# みなと

みなと 62 号 2020 年 12 月 1 日  
兵庫県声の図書赤十字奉仕団  
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-4-5  
日本赤十字社兵庫県支部内  
(Tel) 078-241-9889 (Fax) 078-241-6990  
代表者 足利教治  
編集者 高橋晶子

今年、日本赤十字社兵庫県支部は創立 130 周年を迎え、11 月 30 日（月）にポートピアホテルで式典が行われる予定でしたが、新型コロナウイルスの感染再拡大に伴い、急遽中止となりました。私たち声の図書奉仕団からも 11 名の方々が出席され、有功章などの贈呈式も行われる予定でしたが残念です。（声奉からの受賞者は 25 名）

その中から「特別表彰（奉仕功労特別感謝状）」を受けられる 2 名の方から、永年の活動を振り返っての思いを寄せていただきましたので、ご紹介します。



## 33年間を振り返って

田邊 依子（ともしび）

この度は、はからずも感謝状を戴くことになりましたが、正直に申しまして、私の方こそ「日赤声の図書」に感謝の気持ちでいっぱいです。良き師良き仲間に恵まれ、声奉の活動を通して多くのことを学び、充実した日々を過ごすことが出来ました。

朗読ボランティアは幼い頃から漠然と、将来したいと思っていました。父が買ってくれた「ヘレンケラーの半生記」を読んで以来、心の片隅にその気持ちが芽生え、長じて主婦となってからは、子育てが一段落したらと決めておりました。

その機会は意外に早く訪れ、息子同士が同じクラスになったご縁で、永井万里子さんのお誘いでともしびグループに入会しました。

その頃、元町の旧庁舎の三階にあったボランティアルームの片隅には、まだオープンレールの録音機がありました。故坂井時忠元知事夫人のご寄付で録音室が二つ並んで造られ、団員一同大変喜びましたが、残念ながら薄い板で仕切られた録音室は、隣の声がすっかり聞こえてきて、二ブース同時には使用出来ませんでした。あの頃、雑音や接続音が入らないよう工夫して録音する為に、今では考えられない苦労がありました。

2003 年現在の庁舎が完成し、明るく広いボランティアルーム、海に見える録音室と編集室を最初に見た時の喜びはひとしおでした。

翌年、秋篠宮紀子妃殿下がご視察にお見えになった折、「旅」の編集をしておりました。分刻みの妃殿下のスケジュールに合わせ「旅」のエンディングの部分の編集をご覧頂く予定でしたが、新庁舎の下から順にご視察になるスケジュールは少しずつ後ろにずれて、妃殿下がボランティアルームへお入りの時は編集が終わっており、出来上がったばかりのテープを試聴しておりました。そこへ妃殿下が入っておいでになり

「今何をなさっているのですか？」とお尋ねになりましたので「編集を終わったばかりのテープの試聴をしておりました」とお答えしますと、にこやかに「出来たてのホヤホヤですね」と仰いました。そのお言葉で私共の緊張がほぐれ、あの時の和やかな雰囲気は今も忘れられない思い出になりました。

その後、時代の流れと共にデージーに移行し、現在に至っております。気が付くと私も年齢を重ね来年は八十路を迎えます。アナログ人間の私が出来ることがは少なくなりましたが、リスナーの皆さんが喜んで下さる番組作りを少しでもお手伝いが出来ればと願っております。



## 日赤の中での私 「過去・現在・未来」

柚本加代子（はあもにい）

日本赤十字社兵庫県支部創設 130 周年おめでとうございます。

私が声の奉仕団に入団したのは 1990 年、記念すべき 100 周年の年でした。子育てが一段落し、自分にできること・自分がしたいことでの社会参加探しからたどり着いたのが声の奉仕活動でした。当時の YWCA・B グループ現在の「はあもにい」に入会し、上筒井通りの YWCA 会館でのんびりと月 2 回の朗読練習を楽しんでいました。

転機が訪れたのは阪神・淡路大震災で、義援金の礼状宛名書きに兵庫県支部に通う中、職員の方々の献身的な活動を見聞きして団員としての自覚が生まれたように思います。この活動が単に自己満足の趣味に終わることなく社会の役に立つボランティアへと繋がったと実感した瞬間でした。

日赤の行事への参加やリスナーさんとの交流を重ねてきた今日、今後も日赤団員の一人であることに誇りを持ち続けたいと思っています。

「はあもにい」では、花時計の番組の一つ「ワクワクドキドキどんな人・モノに会えるかな？」にかこつけて皆で見学やインタビューによく出かけます。リスナーさんへお伝えしたい気持ち半分・自分たちも十分に楽しんでいます。グループのカラーや人との縁を大切に活動を通じて得られる友人など心の財産をこれからも積み重ねてゆきたいものです。

今年はコロナ元年です。すべての事柄に新常态・ニューノーマルが求められています。それには「何を削り・何を残す」かの見極めをつけねばなりません。これまでの常識を変えていく必要がありますから勇気がいることでもあります。

リスナーさんの声に耳を傾け、高齢化したリスナーさんが楽しく役に立つ内容や負担にならない所要時間に配慮するいいチャンスとも言えます。

願わくは声のアルバムを一冊の雑誌として体系づけ編集できればいいのではないかと考えますが、一筋縄ではゆかない困難な道のりなことでしょう。

私にとって心残りは、アクセントの壁が乗り越えられず単行図書が残せなかったことですが、30 年間にわたる団員の皆様との交流はそれにもまして大きな宝物となりました。

日本赤十字社兵庫県支部のますますのご発展をお祈りいたします。

## デイジー班



8月から声の奉仕団の活動が少しずつ再開して、内容は多少変則でしたが9月14日「声のアルバム9月号」を発送できました。その後は各グループがそれぞれのペースで活動されているので、ボランティアルームに行ったときに活気が戻って嬉しく思う機会が増えました。

デイジー班としては、11月2日に久しぶり（今年の1月以来）のミーティングを開催し、実際にメンバーが集まってこそできる話し合いができたと思います。

定例の議題に加えて「声のアルバム9月号」発送の際の感染症対策やその後の検証、支部に購入していただいた“プレクストーク PTR3”のお披露目などをしましたのでご報告いたします。

・9月号発送時の対策として「声のアルバム」発送時のコピー後のモニターの対象を、全てのディスク→コピー機を特定したうえでピックアップしたディスクのみに変更したことで作業を軽減しました。そして、リスナーから不備があったと連絡があった時には迅速に再発送できるように予備ディスクを多めに用意していましたが、リスナーからの連絡はほとんどなかった（1件のみを確認）為、今後もモニター作業は軽減のままで実施することを決定しました。

・青年Gの水口さんから“プレクストーク PTR3”をデイジーメンバーに紹介していただき、従来のプレクストークとの違いなど便利な点を説明していただきました。ミーティング後の午後には有志が実際に操作を体験、今後の活動に活かせる手ごたえを感じました。

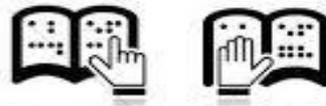
11月9日は「声のアルバム11月号」を発送できました。次回のデイジーミーティングは1月11日、「声のアルバム1月号」の発送は1月18日の予定です。

“With コロナ”の生活がいつのまにか日常になってしまいましたが、今後も感染リスクを少しでも軽減できるように気を付けながら、ボランティア活動を楽しみたいものだと思います。

石田むつみ（ともしび）



## 点字班



今年度は異例づくしの一年となりましたね。点字班でも、いつもなら10月から12月にかけて学校講習があり、にぎやかに点字の授業をしているはずでした。ですが今年は講習の依頼もなく、子供たちの元気な笑顔を見ることができず、少し寂しい日々を過ごしています。そんな中でも、例会の度にほぼ決まっていっていることが3つあります。それは、

- ① 点字の学習 マスあけ・読み・書くなど（今のテキストは「ちびまるのぼうけん」）
  - ② リスナーからのお便りの読み取り
  - ③ メッセージカードの作成
- です。

点字学習をすることで、点字の基本に立ち戻りながら、知識を深めていくことができます。自主練でもしない限り、覚えたことは直ぐに忘れてしまいますが、それでも、毎月コツコツと続けていけば蓄積していきます。また、リスナーからのお便りの読み取りやメッセージカードを書くことは、いわば実践編というべきでしょうか。苦勞しながら、何とかお手紙が読めた時は、満足感と同時にたくさんの感想を力強く書いてくださったことに有り難い気持ちになります。

メッセージカードは、約縦10cm横15cmのカードに数行のメッセージ文を点字で書いていく作業です。まずは正確に書くことを目指します。点筆を持つ力加減で、膨らみが弱かったり、強すぎて破けてしまうこともあります。そんな細かで地味な作業ですが、皆で楽しくワイワイと相談しながら、進めています。こういった地道な作業の繰り返しが、学校講習の実践に繋がっているのかもしれない。

来年度は、学校講習を再開できるかはまだ分かりませんが、日赤支部や各学校と連携し感染予防策を考え、リラックスした雰囲気の中で、新しい講習ができればと願っております。

久保田加奈女（はあもにい）



## 朗読・音訳を見直す会



今年度は、朗読・音訳を見直す会にとって大事な年になるはずでした。今後のあり方を、一年間じっくり話し合う予定でした。

「日赤声のアルバム」が2008年2月号から発行されるようになり、それまで、各グループが個々に制作・発送していた雑誌テープが、一枚のCDに収録されるようになると、各グループの違いが顕わになり、兵庫県声の図書赤十字奉仕団としての統一性が需要ではないかという意見が団員から出されました。それを受けて、本奉仕団の基本的方針を示すマニュアルを制作すること、「制作テープを考える会」のあとを受けて、チェック機関としての役割を果たすことを目的に、2010年11月、本会が発足しました。

マニュアルを作るために、まず現状を把握する必要があり、全グループ参加のPHPの試聴を始めました。また、朗読・音訳に関する情報を収集・発信しながら、3年かけてマニュアル案を作成し、各グループを指導されていた小石先生、佐伯先生、永田先生、平林先生にご意見をいただき、2013年6月に「兵庫県声の図書赤十字奉仕団 録音図書製作マニュアル」第1版を発行しました。

チェック機関としての活動は、PHPの試聴の他に、小石先生、佐伯先生、永田先生、本会の代表を長く務めてくださった阿部さんを講師に招き、勉強会を開いてきました。残念ながら、今年は開催できませんが、各グループのメンバーが一堂に会して勉強することは大変有意義だったと思います。本会が発信する内容が細かすぎる、というご意見もありましたが、リスナーに「伝わる図書」をお届けするには、まず基本をしっかり勉強することは必須であり、基本なくして進歩はないと思っています。

今年は発足して丁度10年の節目の年にあたります。マニュアルも第3版を皆さんにお渡しすることが出来、当初の目的はほぼ達成されましたので、本会を見直す良い機会だと思われましたが、思いがけないコロナ禍のため、先行き不透明と言わざるをえません。しかし、状況の変化の激しい中、何が大切かを見きわめながら、朗読・音訳を見直す会が、11年目の新しい第1歩を力強く踏み出すことを信じてやみません。



### 「ことばの探偵局」

～役に立つ基本的アクセント～

※平板式動詞「咲く」＋「ない」

咲かない（平板）、咲かなくて（ナまで高い）、咲かなかった（ナまで高い）

※起伏式動詞「読む」＋「ない」

読まない（マまで高い）、読まなくて（マまで高い）、読まなかった（マまで高い）

池内早苗（こすもす）

## 単行図書検討会



日々増えていくコロナ感染者の数が気になりながらも、「つちのこ 4 月号」の朗読劇のセリフ入れを、何とか大ブースで終えた 3 月初旬。その後、感染者数は、どんどん増加し、日赤ボランティアルームも閉鎖になったことは皆さんもご存じのとおりです。

何も出来ないストレスを抱えて。それでもストレスをパワーに変えて、私は何をする？何が出来る？と自問した時ふと、以前リスナーから神戸新聞の「イイミ」欄を読んで欲しいとリクエストがあり、何度か期間限定で録音したことを思い出しました。そうだ！「イイミ」を何人かでグループを組んで録音しよう！と、思ったものの、コロナ禍のなか USB を郵送で何度も何度もやり取りすること自体が難しい・・・！ 無理かぁ・・・と、悩んでいた時

グループの人達が、録音時間7、8分なら、圧縮してパソコンから送れるかも！と、アナログ人間の私に、メールや、パソコン教本のページを PDF で送って、圧縮の方法、展開の仕方・・・を教えてくださいました。実際に、圧縮でやり取りしてみて・・・これなら、出来る！と思えました。「イイミ」の紙面は、PDF で送ればいい。

そこで、4 月中旬、単行図書検討会のメンバーと、YWCA グループの家で録音可能なメンバー、グループは違っても個人的にお願いできる方に期間は 5 月～7 月の 3 か月間、と限定して、「イイミ」録音に参加してもらえませんか？と声を掛けさせてもらいました。結果、十数名の方が参加して下さることとなりました。

まずは、パソコン内での単行図書検討会。「イイミ」をプライベート本にするか、蔵書にするか？から始まり、コロナ禍の中での、いろんな問題点をどうするか？ くらくらするほどの(笑)メール交換が行われたこともありました。それに引き換え、実際の作業の方は、お願いすると、「編集は、私します。」「CD は、作成します。」と頭が下がるほど、即座に、それぞれの作業を受け持ってくださいました。

紙面を PDF で送り、録音音声が届くと、1 次校正をし、2 次校正者へ、そこで、音声チェック。1 か月分を日にち順にして、次の、デイジー校正者へ 1 日 1 日、日々バトンのように繋いでいく作業。録音に携わって下さったそれぞれの方々、真摯な思い、熱い思いを繋いでいくようで、コロナ禍の日々の中で、いつの間にか、グループも超えたその人達との繋がりに又、「イイミ」を、発刊するということが、私自身が、沢山のエネルギーを頂いていました。その、人と人とを繋げてくれたパソコンという非人間的なツールを、改めて、身近なものに感じました。

「日赤声のアルバム 9 月号」の『単行図書だより』では、新刊 12 冊という多くの本が紹介されました。リスナーに多くの新刊をご紹介出来るのは、単行図書検討会の一員にとりましても大きな喜びです。単行本を録音します！と、1 人でも多くの方が、挑戦して下さることを、お待ちしております。

山崎いづみ(神戸 YWCA)

## メーリングリストより

こえの、ほうしだんのみなさま、  
きのう、こえの、アルバムが、とどきました。  
ころなかのなか、みつを、さけての、せいさく、ありがとうございます。  
こんかいは、どんな、ことが、はいつているんだろう？  
ワクワクしながら、まっていました。  
おふろいただいてから、ゆっくり、きかせていただこうとおもいます。

てんきよほうによると、あすは、ごごから、あめなのでしょうか？  
おりたたみがさが、あつたほうが、よいとか、ゆっていました。  
さいきん、ていきあつが、くると、頭が、いたくなるように、なってきました。  
たいちょうの、かわりめなのでしょうか？  
でも、きもちをきりかえます。  
それでは、しつれいします。  
(川上裕子)

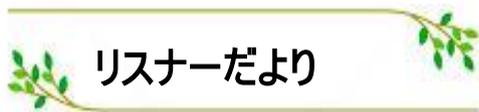
団員の皆様、こんばんは、垂水のえとう みちこです。  
今日は良いお天気で気持ちがよくかったですね。  
団員の皆様には、いつもお世話になりまして、本当にありがとうございます。  
先日、声のアルバムが届きました。  
また、ゆっくりと聞かせていただきます。  
これからも、よろしく願いいたします。

めいるは、いつもはいけんしています、ところで、ひさしぶりの、こえのおたより、たのしくきかせていただきましたよ、ひさしぶりに、たんとうしゃの、おこえきかせていただきました ありがとうございます、ところで、最近は、この夏の暑さで、少したいちょうを、崩しましたが、なんとか持ち直して、本日、なんとか、85歳を、迎えました、おかげさまで、ひ孫も見ましたので、なんとか、もうすこしは、がんばてみたいとおもいます、いまはほぼ、まいにちが、りはびりせいかつです でもいまは、ふくしの、やくいんととしての、けいぞくもあって、たまにわ、でかけます

(田辺 徳孝)

じょうほうありがとうえとうさん、たかせさん かわかみさん ありがとう、たなべです 寒くなってきましたが、皆さんお元気そうで何よりです、わたくしも、高齢になりましたが、毎日、リハビリと付き合いながら、過ごしていますよ、ところで、阪急春日の駅といえば、にほんせきじゅうじこえの、としょかんなど、ほんぶがあるところですね、ほんとうに、たすかりますねんこそは、みなさんにおあいしたいですね、それまでがんばらないとね

m1のみなさまおはようございます。  
初めてメールをさせていただきます姫路の松本 隆子と申します。  
私は高齢者で 目のほうは 光がわかるくらいです。独り暮らしでなんとか家事は一人でやっています。  
声のアルバム大変役にたつ情報も 楽しいお話もあっていつも楽しみに聞かせていただいております。  
ボランティアのみなさまには大変感謝しております。特にコロナ禍のなかご苦勞も多いと思いますが  
これからもどうぞよろしく願いいたします。



## リスナーだより



小島美佐子さん 2020.9.29

日赤のみなさまへ

このたびの声の図書テープありがとうございます。

久しぶりのテープでどんな内容なのかワクワクしていましたね。

これからも 楽しい話題をお願いいたします。

香山良樹さん 2020.10.1

声のアルバムありがとうございます。

コロナによって雑誌がどうなるのか心配していましたが、久しぶりに届いてほっとしました。

コロナでご苦労なされたと思います。日赤の皆様いろいろお忙しいのに、私たちのため骨おって下さいました。皆様お元気で感謝です。雪がなくなるそうですが、大変勉強になりました。

皆様の健康 守られますように

中原真理子さん 2020.10.13

雪 9月号を聴かせていただきました。

表紙の絵がわかりやすいので、今後もよろしくお願い致します。(中略)

せっかく再開できたのに雪の休止は急なことできみしいことですね。悲しいことです。

ひと月おきの発行とは とてもさみしいですが、新しい雑誌「明日の友」も楽しみにしていて 初めてのことなので どうかはわかりませんが、とても期待して待っています。

そんな事情があったとは知りませんでした。とても残念です。お便りも「雪」には、ずっと出していたのと思うといたたまれません。情勢がこうなので仕方ありませんが、皆元気なころが聞けてよかったです。

消防の情報も勉強できたりして、よかったですよ。 会話のような二人の朗読もあったので とても よかったです。これからも 引き続きよろしく願いいたします。

## 花時計 プログラム

### 花時計 2020年9月号

#### ともしび

1. インタビュー  
「ハンガリー10カ月の学生生活」
2. 外山純子著「ブダペスト旅物語」  
より〈ブダペストの温泉〉
3. サグラダ・ファミリア  
「永遠の未完」最終章へ

### 花時計 2020年11月号 こすもす

1. 十三代目市川團十郎白猿の襲名によせて  
野口典子さんへのインタビュー
2. 高田郁著「晴れときどき涙雨」より 「パンと牛乳」
3. 神戸市立海外移住と文化の交流センターを訪ねて
4. 池内紀著「すごいトシヨリ BOOK」より  
「気まずい夫婦旅行」
5. 「アマビエ」って何？
6. 安房直子著 「きつねのまど」 朗読劇
7. おたよりコーナー